東方恋々録

空

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
東方恋々録

【Ｎコード】
Ｎ３２５０Ｐ

【作者名】
空

【あらすじ】
ある一人の女の人が居ました。その女の人は東方が大好きです。そして願いました『幻想郷に行きたい』そんな時目の前に現れたのは八雲紫。さてさてどうなるのでしょう？
『ハーレム♪ハーレム♪』「本当に連れてきて良かったのかしら？」
『そんなつれないこと言わないでよ～』　「冗談よ」

ぷろろ～ぐ　～いざ幻想郷へ！！～（前書き）

昨日はマラソン大会だったから疲れた・・・・
しかし妄想はやめないッス

ぷろろ～ぐ　～いざ幻想郷へ！！～

『幻想郷にいきたいよおおお』

ヤバイよね幻想郷。だってあんなに可愛い子が沢山いるんだよ、沢山。
ロリから熟・・・お姉さんまで盛り沢山だよ？てかマジで行きたいっす！！
ジュル・・おっとよだれがｗｗいけないいけない。我慢だ私！！

『はぁ～ホント幻想郷にいきたいなぁ～』

そしてあんな事やこんな事をぐへへｗｗ

「なら、連れてってあげましょうか？」

なんですとおおお！！！どちら様ですかそんな冗談を言うのは・・・・
後ろを振り向くと其処に居たのは

『ゆかりん！！！！って、えええええええええええ！！！！！！』

金髪に日傘、扇子、そしてスキマ・・・ってちょっと、え？え？マジでゆかりん？

「こんにちは。そして初めまして」

『え？え？ゆかりん？えええええええええええええ！！！！！！

！！！』

「ふふふ、そんなに驚かなくてもいいわよ」

いやいやいや驚くって普通はね。でも今私は猛烈に感動している！！！

「貴女の事気に入ったわ。だから幻想郷に招待してあげてもいいわよ」

『本当！！！』

「ええ」

『何しても良い？』

「ええ」

『手をだしてもいい？』

「ええ、構わないわよ」

『やったあああああああああああ』

ちょっ、どうしよう！！やば嬉し過ぎて言葉が出ないｗｗ

よっし誰から落とそうかな？やっぱり霊夢や魔理沙かな。

くふっ、考えると笑いが止まらないｗｗ

「妄想するのはいいけど、早くしてくれないかしら？」

『あっ大丈夫だよ！！ゆかりんも私のハーレムの一員だから！！』

「・・・ふふ面白いわね。じゃあ早速スキマを開くわよ」

『あっ！ちょっと待って幻想郷にもって行きたい物準備するから』

「かまわないわよ」

えっと、お菓子・ゲーム・東方関連の物・食材・お茶葉・なんかの薬・ノーパソｅｔｃ
よっしおｋ準備万端！！

『おｋ！！もういいよ！！』

「じゃあ行きましょうか」

楽しみだな～早くハーレム作りたいな～
そして私はスキマの中に飛び込んだ

「ようこそ幻想郷へ」

第一恋　～紫&藍を食べた私は決して悪くない・・・はず～（前書き）

やっちまったｗｗ
そしてエロくなったｗｗ
苦手な方はお戻り下さい。

第一恋　～紫&藍を食べた私は決して悪くない・・・はず～

～スキマにての会話～

『ゆかりん、ゆかりん。まずは何処に良くの？』

「そうね、まずはマヨヒガかしら。」

『くはっ、マヨヒガだと？まじですかあああ！！！』

「どうしたの、そんなに慌てて？」

『だってだって、マヨヒガだよマヨヒガ。マヨヒガ＝藍しゃまだよ？興奮しない訳無いじゃん！！』

「あら、なら橙は？」

『ん～橙は精神的にアウトかな？そこまでロリコンじゃないし、しいて言うなら妹的な存在かな？』

「そうかしら？貴女なら（性的な意味で）食べそうな気がするのだけれど？」

『だ～か～ら～其処までロリコンじゃないってば！！』

「なら私のことはどうするの？」

『（チャンスきたコレｗｗ）そうだなぁ～』

「えっと、どうして私の後ろに来るのかしら？」

『もちろん、ゆかりんは』

「私は？」

『（性的な意味で）いただきます』

「えっ、ちょっと待ってくれるかしら？それはもちろん食事的な方のの意味かしら？」

『いやいや、性的な意味で・・・あっ言っちゃった』

「それは私が貴女を、よね？」

『私がゆかりんを、だよ？』

「まっておかしいわ。何故私があなたに（性的な意味で）食べられなくちゃいけないのかしら？」

『ゆかりんが可愛いから』

「それだけ？」

『うん、じゃあいただきます』

「い、いやああああああああああああああああああああああああ」

～マヨヒガ到着～

「こ、これはかなり危険ね・・・」

『あ～おいしかった。満足、満足』

いや～勢いでゆかりんのこと（性的な意味で）食べちゃったｗｗ
あっはっはｗｗ照れるゆかりん、マジ可愛かったッス！！
もう我慢なんて出来なかったｗｗ

「紫様、いつのまにお戻りになられたのですか？」

ら、らんしゃまあああああああああ！！！！！！！
うほっ！間違いない、あの帽子に耳そして九本の尻尾！！

『らんしゃまあああああああああああ』

もふもふもふもふもふ
ふさふさして気持ち良い！！尻尾最高です！！
もうたまりません！！

「ひゃっ、ちょっ、え、ゆ、紫様助けてください！！」

「ごめんなさいね藍。諦めなさい」

「え、ひゃっ、ん、んん、ああ、だめです。あ、そこ、ん、さわっ、
ひゃっ、ちゃダメで、す／／／」

ぶはっ！！もう我慢できません！！
我慢は体に毒です。さぁらんしゃまをいただきましょう

『紫、どこかに空き部屋無い？』

「あるわよ、入ってから一番奥の部屋よ。というより呼び捨て？」

『じゃ、お邪魔します。じゃあらんしゃま戴くわね』

「え、ちょっと待ってください」

『いっただきま～す』

「ひゃあああああああああああああああああ」

「ごめんなさい藍。不甲斐無い主を許して」

～こんな事があったとか？藍編～

『ふふ、ら～ん私の名前は桜よ。さあ呼んでみなさい』

「あっ、んっ、さ、桜様、ふっ、ああ」

『良く出来ました。じゃあご褒美あげるね』

「えっ、ご褒美って、ひゃっ、んん、ふぁ、あっ、だ、だめです、それ以上やられると」

『ふふ、イッちゃえ』

「ふあああああああああああああああああ」

・・・

・・・・・

『ふふ、藍。これで貴女はわたしのモノよ』

「は、はい。桜様。」

『ふふ、妖怪だから体力がまだあるわね』

「え、さ、桜様？」

『デザート、デザート』

「ああ、ら、らめえええええええええええええええ」

これをキッカケに藍はベタ惚れになったとか・・・

第一恋　～紫&藍を食べた私は決して悪くない・・・はず～（後書き）

ふっ、後戻りはもう出来ないＺＥ☆

第二恋　～三人組最高ッスｗｗ～（前書き）

やっべｗｗ

ゆかりんキャラ崩壊ｗｗｗ

第二恋　～三人組最高ッスｗｗ～

～マヨヒガ～

は～いお久しぶりで～す、元気ですか～？
元気があれば何でもでき（ｒｙというネタは置いといて・・・
はい！マヨヒガにやってきて何と二週間になりました～パチパチパチ～♪
いや～早かったね時が経つのがｗｗ
え？二週間なにしてたって？ふふふ教えてあげよっか
なんと、ずっとゆかりんとらんしゃまとイチャイチャしてましたｗｗ
羨ましいだろはっはっはリア充はいいね～
キスや膝枕、添い寝、夜の営みなどなどヤりまくりッスよｗｗ

『ゆかりん起きて～』

「何か用？今腰が痛いから動きたくなのよ」

『ゆかりんも年取ったもんね』

「違うわよ！！桜が昨日ピーーーしたからでしょ！！」

『あは☆サーセンｗｗ』

放送禁止用語だから１８才未満はお断り♪
じゃなくて用事用事

『でね～ゆかりん』

「何かしら」

『今日ここ出て行くから』

「そう、ここから出て行くのね・・・・・え、えええええええ」

『ゆかりん、うるさい』

「あら、ごめんなさい。じゃなくて！どうして私に不満でもあるの？」

『いや無い！てかさ～ぶっちゃけると』

「（そこまで否定しなくても）ええ」

『霊夢とか魔理沙とかアリスに会いたいな～と』

「・・・・・・・・」

『どうかしたの、ゆかりん？』

心なしかオーラが凄い事にｗｗ
やっぱいな～前もこんな事あったんだよね・・・・

「さっさと行ってきなさい！このバカ！」

やっぱり。てかスキマ！
らんしゃまに挨拶してないのに～！！

～博麗神社～

いたたたた、ゆかりんの容赦無しに全私が泣いた・・・ネタはやめよ

「まったく、またあのスキマね」

「まあまあ、霊夢落ち着けって」

「そうよ、もしかしたら外来人かもしれないわよ」

こ、この声はまさか！！！

『キターーー！！！！』

よっしゃ！まさかいきなり三人に会えるなんて！！

神様！！ありがとう！あ、神奈子さまとかの事じゃないよ？

「おいおい霊夢！見てみ・・・・」

「何よまった・・・・」

「どうし・・・・・」

ん？何か三人が黙った？

てか超可愛い！！やっぱ鼻から愛が溢れ（ｒｙ

「「「「（可愛い／／／）」」」」

てかどうしよう？

第二恋　～三人組最高ッスｗｗ～（後書き）

久しぶりに投稿！
最近ＡＫＢにハマって書くの忘れてたｗｗ

第三恋～いじられキャラ決定・・・～（前書き）

ヤっちまったｗｗ
エロ注意

第三恋～いじられキャラ決定・・・～

お久しぶりで～す！！桜です！！

え？もしかして名前知らなかった？いやいやいやちょっと出たよ、私の名前！

ほら藍と”バキューン”したときに・・・・

あ、確認した？よかった、よかった～

では、改めて言わして貰おう

どうしてこうなった！！

いや～、あれから三人組と仲良くなったんすよｗｗ

んで、頭撫でられたり、お茶飲んだり、頭撫でられたり、撫でられたり

あれ？撫でられてばっかｗｗまあ、いいや、気持ちよかったし

あ、性的な意（ｒｙ

で、アリスと魔理沙は魔法使いだから魔法の話になって

魔法を

ヤ ら な い か

みたいな？

んで、私が魔法を使えたらお願いを聞いてもらえるっていう条件で魔法を練習したんですよｗｗｗ

いや～萌えたね・・・え？漢字違う？まあいいじゃんｗｗｗ

『マスタースパーク！！！』

ドカーーーーーン

「・・・・ま、まさかここまで才能があるとは・・・」

「いや～さすがの私もビックリしたぜ！！」

「へえ～桜。神社で働かない？」

お褒めの言葉を戴きました！！

『さぁさぁさぁ！！お願いを聞いて貰おうか！！』

「ちょ、ちょっと？桜？目が獣になってるわよ？」

アリスさんや・・・当たり前でしょう！！

こんなかわいい子達と”ピーーー”とか”バキューーン”とか出来るなんて夢のまた夢でしょう！！いや～ゆかりんに感謝しないとね～ｗｗｗ

『外でヤるのもいいけどまぁ初めてだろうし中でいっか』

「桜？本当に目がヤバイんだぜ？」

『霊夢～布団の準備と結界よろしく～』

「何をするつもりなのアンタは？」

『もちろん４”ピーーー”だけど？』

「「「隠れてない！！隠れてないから！！」」」

別に隠れて無くったっていいんだぁぁぁぁぁ！！！

私は！堂々と！ヤってやる！！

・・・はい、意味が分かりませんね

まあとにかく今は

ヤ　ら　な　い　か

～ここからは音声のみでお楽しみください～

「ん・・あっ・・・・・っっ」

『アリス～？もうこんなになってるよ～？』

「んっ・・・い・・いわないでぇ・・・っっっっぁぁ！！！」

『あれ？イっちゃった？じゃあ次は霊夢にシよっと』

「ちょ・・・んぁ・・まっ・・あぁ！！・・・まってってばぁ・・」

『うわ～霊夢乱れすぎ～』

「そっ！・・んなの・・あっ・・あんたがっっっ！！・・・するから・・・んっっ・・・でしょうが・・・あぁ・・」

「・・・さくらぁ～・・・私にも・・してくれだぜ・・」

『魔理沙もエロいなぁ～』

「だって・・・お前が・・・何もして・・・くれないから・・」

『はいはい・・ちょっと待っててね～』

「んっっ・・・・な・・にああっっ・・・・だめぇ・・も・・うそれ以・・上やられたひゃっ！・・・・も・・・・無理・・・っっっっぁ！！」

『じゃあ、魔理沙こっちにきんんっ！！ん、ちゅっ、ふっ・・はっっ』

「ん、ちゅ、んちゅ・・ぷはっ・・・」

『・・・・・まままま魔理沙！？一体何を！？』

「・・・・まさかとは思うが桜、攻められるの慣れてないのか？」

『・・・・・・・そんな事はなんんっっっ、ちゅ、、んぁ、、、ん、、くちゅ』

「・・ちゅ・・ぷはっ・・よし、確信した」

『へぁ？ちょ・・・・だめぇ・・・』

～終了～

・・・・おいしく頂かれました

ううっ・・・もう無理です。お嫁にいけません・・

「私がお嫁にもらってやるぜ！！」

『・・・・アリス～霊夢～（泣』

「へぇ～攻めに弱いんだ～」

「良い事を聞いたわね」

『えっ！？ちょ・・ちょっとま（ｒｙ』

・・・・・・・・・・
・・・・・・・・・
・・・・・・・・
・・・・・・・
・・・・・・
・・・・・
・・・・
・・・
・・
・

しくしくしく・・・もう穢れきった・・

うわぁぁぁぁん・・・いいもん！ゆかりんでも襲うもん！！

「呼んだかしら？」

『ゆかりん！！！よかった！！今から』

「そういえば貴女、攻めに弱いらしいわね」

『へ？いやいやいや、まじで？』

「私が貴女を頂くわね」

『うぇ！？ちょいちょいちょい！！ちょっとま（ｒｙ』

・・・もう無理

うぅ・・・此処に居たら危険だ

はやく逃げないと！！！

「そういえば貴女の能力がわかったわよ」

『マジで！！！なになになに！！！』

「”能力を創作、コピーする程度の能力”よ」

え、なにこのチートｗｗ

やばいテンションあがるわ～

「けれど、使うにはいろいろな条件が必要よ」

『例えば？』

「コピーをする時にはその対象にキスをしないといけないわ」

・・・よっしゃぁぁぁぁぁぁぁぁぁ！！

やっべ！キスし放題じゃん！！

「あと、コピーしてる間はその対象の種族になるわ」

『つまり対象者がゆかりんの時は妖怪になるって事？』

「ええ、そういうことよ」

『なんというご都合主義！！』

「・・・・まあ行き成り言ってもわからないだろうし」

『だろうし？』

「一ヶ月ほど修行しなさい」

『え？何処で、って！！またスキマァ！！』

「一ヶ月後に会いましょう」

うぇぇ！！まじでぇぇぇぇ

修行フラグとか普通建たないでしょ！！

てかどこに落ちるんだろ？

・・・・・・

・・・・・

・・・

・・
・

「あら、あなたが紫の言ってた子ね」

えっと、緑の髪に日傘を差して回りには花畑・・・

まさかのフラワーマスター！！

・・・ああ

小町と映姫様に会えそうです

私には

死亡フラグが建ってしまいました

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n3250p/

東方恋々録

2011年10月7日00時31分発行